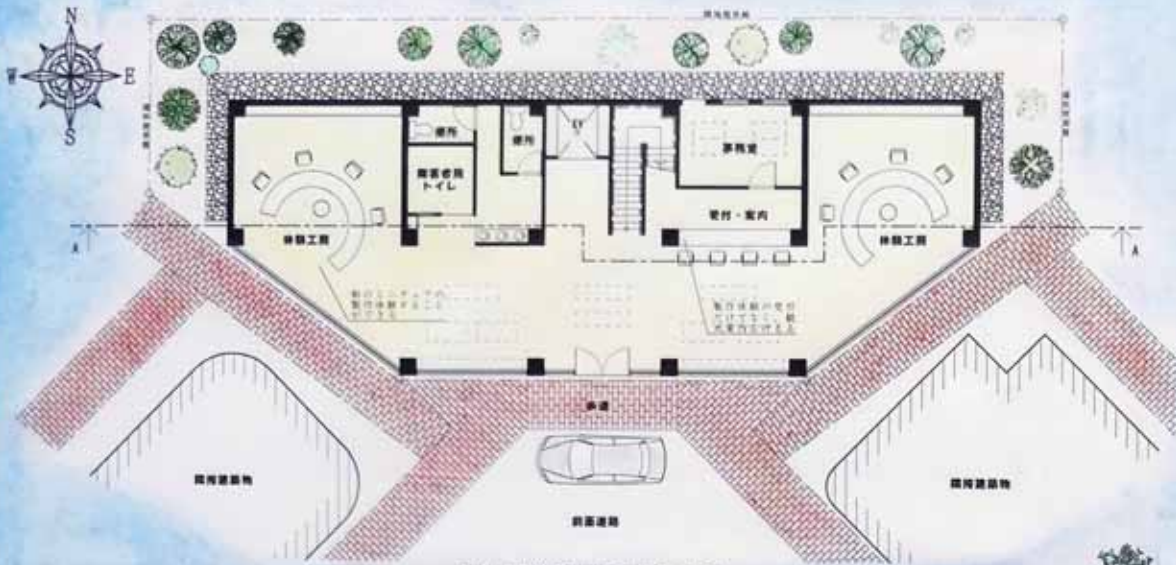


港町の 一端より...

空き家問題の変化について

空き家と聞いて地方の過疎化や一戸建てという単語を思い浮かべる人は多いと思われるが実は最近、空き家は地方だけの問題ではなく、都市部でも年々増加しつつある。その都市部の空き家の多くを占めているのが共同住宅である。今回、そんな共同住宅の空き家について調査したいと思う。



配置図兼1階平面図1:100

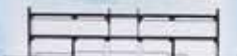


旧平面図1:400

モデルにした空きビルは外から見る人を寄せ付けないような防壁を出している。一つだけ扉がとけ、高く、美しい様子。1階は商業施設だったが、現在はフルシートで覆われて、中が一切見えな状態にある。



2階平面図1:100



B-B断面図1:400

横浜では人口が約1.7億、そのうち約1億人が都市部に集中している。また、そのうち約1億人が都市部に集中している。横浜でも年々増加している。平成20年には空き家の2.4億戸と推定されている。

観光名所について

- 横浜には数多くの観光スポットが存在する。入場料が無料！可愛い動物たちとふれあえる野毛山動物園
- 大さん橋や港の見える丘公園から眺める夜景は絶景！
- 有名な赤レンガ倉庫でおしゃれなひとときを
- 美味しいものをたくさん食べられる中華街
- この他にもたくさん観光スポットが存在する。



3~5階(宿泊部屋)一部平面図1:100



1階を上から見た様子



2階を上から見た様子



立面図1:200



何もなかった壁の上に緑を飾ることでより景観を向上させる。壁と床は緑でも利用でき、多くの人にとって良い場所になることが期待できる。



旧立面図1:400



A-A断面図1:100

リノベーションデザインについて

今回モデルにした空きビルは横浜のみならず、みらい地区にもあり、近くには赤レンガ倉庫や中華街などの観光名所が数多く存在する。少くも歩けば横浜を歩けることができ、観光客が訪れる。それを観光客向けに体験できる工房として空きビルを生まれ変わらせた。横浜、すなわち港町ということで船のミニチュアの製作や横浜の歴史や工芸品等の製作体験ができる。それを通して、製作体験の受け付けだけでなく、観光客に対して横浜の歴史や工芸品等の製作体験ができる。2階にはミニチュアの展示スペース、くつろぎスペースを設けゆったりと時間を過ごすように設計した。製作体験だけでなく観光客が泊まれる宿泊部屋も設け、また、観光客に対しての観光案内も行うようにし、より楽しめる観光客が訪れることを狙った。また、観光客だけでなく、地元の人々も製作体験をする機会が設けられ、観光客とのコミュニケーションの場となり、観光客が再び訪れたいと思うようになる。このことにより、多くの人々の流れを作り、地域の活性化につながることを期待できる。



体験工房ベース席



船のミニチュア作り



製作体験の受け付けと観光案内



船のミニチュア作り

地域の歴史について

多くの新しい文化がここ、横浜から入ってきた。江戸時代、1853年にアメリカからペリー提督が浦賀に来航し、港を開くように要求した。それから日米和親条約が結ばれ、1858年日米和親通商条約により現在の横浜港が開港された。開港されてから横浜は着実に発展し、かつて海だった場所に埋め立てによってみなとみらいができた。

みなとみらいは横浜駅東口地区、中央地区、新港地区をあわせて186ヘクタール(東京ドーム約40個)からなる。もともとは埋め立てされてから造船所になり、米川丸などの多くの船を港に送り出してきた場所。1965年の「六大事業」の都市部強化事業が元となり、みなとみらいの様子が生まれ出された。

【建築概要】

構造	鉄筋コンクリート構造
規模	地上5階
建築面積	225㎡
延床面積	1075㎡
1階面積	225㎡
2階面積	225㎡
工事要旨	改築



【案内図】

みなとみらい 徒歩1分
 新港地区 徒歩1分
 (横浜駅東口)